

結核しずおか

創刊号 1999年9月24日

発行所

財団法人結核予防会静岡県支部
〒420-0915

静岡市南瀬名町6-20
TEL 054-261-2512
FAX 054-261-9474

発行責任者 花崎敏行

『結核しずおか』創刊にあたって



財団法人結核予防会静岡県支部は、昭和29年12月に静岡県の外郭団体として法人認可されて以来、45年間にわたり結核を中心とする疾病の予防思想の普及、関係者の研修、予防対策の調査研究及び健康診断等を行っております。

結核は、かつて国民病と言われた時代がありましたが、国民の生活水準の向上や医学・医療の進歩、結核対策に携わってこられた関係者の献身的な努力により、大きく改善してきました。

しかしながら、結核は決して過去の病気ではありません。私たちは、結核を既に克服された過去の病気であると錯覚してきたのではないのでしょうか。世界保健機構（WHO）は平成5年に結核の非常事態宣言を発表し、加盟各国に対策の強化を求めています。

日本においても、平成9年で約4万2千人の新規結核患者が発生し、約2千7百人が結核で亡くなるという日本最大の感染症であります。

さらに近年、多剤耐性結核、多発する学校・医療機関、老人施設等における集団感染問題など、緊急に対応を図らなければならない重要な課題が出現しております。

そのうえ、平成9年には、これまで減少を続けてきた新規発生結核患者数が38年ぶりに、罹患率が43年ぶりに増加に転じた事が明らかになっており、今後も引き続いて増加していく危険性が指摘されております。今後、多剤耐性結核が蔓延する等、再興感染症として猛威をふるい続けるか否かの分岐点に立ち、国民の健康を脅かす大きな問題として取り組んでいかなければ、将来禍根を残すことになります。

以上のことから、厚生省は、「結核緊急事態宣言」をし関係省庁、地方自治体、関係団体とともに、再興感染症としての国民への普及啓発、健康診断を初めとする結核予防法に基づいた、各種施策・事業を強力に推進するとともに、国民各位や関係団体等に対して、結核の問題を再認識し、対策の推進に取り組むよう要請がありました。

これを機に、財団法人結核予防会静岡県支部としては、結核、肺がんを中心とした健康診断の状況等の活動状況や検診の重要さなど疾病予防の普及啓発の為に機関誌「結核しずおか」を創刊することといたしました。「結核しずおか」では情報を写真、図表、イラストを使って解りやすく楽しい読み物になるよう心掛けていきたいと思っております。

今後も、財団法人結核予防会静岡県支部活動の一層の御理解、御協力、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成11年9月

財団法人結核予防会静岡県支部
支部長 石川 嘉延

全国・静岡県の結核の現状

結核は、かつてわが国において国民病と言われる時代がありましたが、生活水準の向上や医学の進歩、結核対策に携わってこられた行政、結核予防婦人会などの関係者の献身的な努力で、昭和55年ごろまでは大幅に減少しておりましたが、その後減少率が鈍化し、平成9年は、わずかですが増加しております。静岡県の患者数は平成9年、10年も引き続き減少傾向にあります。しかし、平成10年の死亡者は、増加しております。

なお、静岡県における住民検診の受診状況は、下表のとおりで受診率は、47～48% 前後を推移しております。

結核の統計（静岡県健康福祉部感染症対策室資料）

1. 結核登録患者：登録患者数及び新登録患者数の推移

区分 年次	年 末 現 在 登 録 患 者 数				年 内 新 登 録 患 者 数			
	全 国		本 県		全 国		本 県	
	患者数	10万人対	患者数	10万人対	患者数	10万人対	患者数	10万人対
昭和36年	1,615,099	1,717.1	38,692	1,391.1	419,424	445.9	12,235	439.9
40	1,469,583	1,495.4	35,854	1,231.0	304,556	309.9	7,611	261.3
45	1,072,013	1,032.2	24,520	793.6	178,940	172.3	4,444	143.8
50	726,862	649.6	16,695	504.6	108,088	96.6	2,751	83.1
55	472,356	404.3	10,599	307.5	70,916	60.7	2,020	58.6
60	306,262	253.1	7,086	198.2	58,567	48.4	1,711	47.9
平成元年	238,189	193.2	6,737	184.2	53,112	43.1	1,549	42.4
2	223,863	181.1	6,187	168.5	51,821	41.9	1,605	43.7
3	210,423	169.6	5,773	156.7	50,612	40.8	1,560	42.4
4	202,193	162.5	5,506	148.0	48,956	39.3	1,467	39.4
5	191,584	153.6	5,170	139.3	47,437	38.0	1,367	36.8
6	181,470	145.1	4,903	131.7	44,590	35.7	1,406	37.8
7	168,581	134.3	4,536	121.3	43,078	34.3	1,240	33.2
8	132,958	105.5	3,459	92.3	42,472	33.7	1,124	30.0
9	121,762	96.6	3,086	82.1	42,715	33.9	1,105	29.4
10			2,415	64.3			962	25.6

2. 結核死亡者数

年次	全 国	本 県	死因順位(全国)
昭和36年	27,916	652	7
40	22,366	560	7
45	15,899	402	8
50	10,567	271	10
55	6,439	131	13
60	4,690	126	16
平成元年	3,525	90	18
2	3,664	112	17
3	3,325	81	20
4	3,347	91	21
5	3,249	75	21
6	3,094	76	23
7	3,177	104	23
8	2,858	71	22
9	2,736	60	22
10		83	

3. 新登録患者年齢構成（静岡県）

年次	年 齢 別 構 成 率						
	~19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳~
昭和36年	20.0	15.9	18.3	13.2	13.4	12.6	6.6
45	12.8	12.0	12.8	15.4	15.4	18.6	13.0
55	3.6	6.5	8.9	11.6	19.2	22.7	27.5
60	2.9	5.8	6.4	10.3	17.4	22.3	34.9
平成元年	2.3	6.8	6.2	9.7	16.4	21.1	37.5
2	2.0	5.3	5.4	9.7	14.7	25.0	37.9
3	1.2	5.8	5.7	9.3	15.2	24.1	38.7
4	2.5	5.2	5.0	8.3	14.2	25.9	38.9
5	1.4	6.8	4.2	8.2	14.0	25.8	39.6
6	1.6	5.7	5.9	8.2	14.6	24.1	39.9
7	1.9	5.6	5.1	9.9	13.2	22.5	41.8
8	1.8	6.8	5.4	9.2	13.3	23.5	40.0
9	1.4	8.0	7.0	8.0	10.5	22.2	43.0
10	2.1	5.7	4.7	9.0	12.2	20.9	45.4

4. 住民健診受診状況（静岡県）

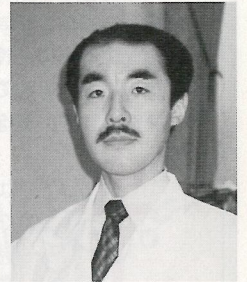
区 分	年 度	5	6	7	8	9	10
対象者数(人)		1,143,260	1,147,747	1,235,672	1,211,572	1,074,279	1,007,961
受診者数(人)		552,739	547,338	531,993	532,524	501,725	493,391
県受診率(%)		48.3	47.7	43.1	44.0	46.7	48.9

最近の結核報道に思う

財団法人結核予防会 静岡県支部

静岡診療所所長 小林健司

今から15年前、私は大学の医局から派遣され、清瀬の結核予防会本部の結核研究所付属病院（現在の複十字病院）に勤務していました。結核研究所付属病院は、結核に限らず、肺疾患すべてを診療する体制でしたが、うっそうとした木立ちに囲まれ、まさにサナトリウムといった感がありました。周辺の、救世軍病院、国立療養所東京病院、国立小児病院といった病院群も、感染症との戦いであった時代を彷彿とさせるものでした。



赴任すると、すぐツベルクリン検査を施行されました。陽性、陰性の判定のみならず、自分の基礎値として発赤の大きさ、性状を覚えておくように言われました。とはいうものの、私も先輩医師たちも、結核はこのまま減少し続けるのだろうという思いを抱いていました。

ところが、15年後の現在、結核の二文字が新聞紙上をにぎわしています、結核への不安感から、検診受診者数も増加の兆しを見せているようです。結核増加の背景は、何なのでしょう？

もともと日本は、結核の蔓延国であり、多数の人が、結核菌の感染を受けています。結核菌を封じ込めた跡の肺の影をもった方も多いです。もちろん、跡があるだけでは、現在結核であるとは言えませんし、治療も必要ありません。ただ問題なのは、ご高齢になり体の抵抗力が落ちると、細胞分裂を停止していた、いわば冬眠状態の結核菌が、再び活動を始め、感染源になる場合がある点です。

その意味で、超高齢化社会に突入した日本で、結核が増えているのは、やむをえないかもしれません。体の抵抗力が落ちていれば、新しく結核菌の感染を受けた時にも問題になります。ご高齢者のみならず、免疫力の弱い乳幼児、エイズ患者さんが重症化しやすいのは、よく知られた事実です。

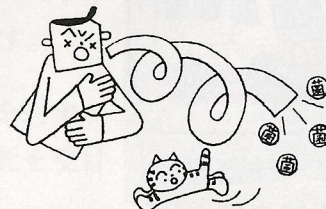
一般の方は、マスコミの報道から、“恐ろしい結核の集団感染、迷惑な排菌者”というイメージを受けるでしょう。しかし、集団発生も、風邪のように身近に起こり得ることなのです。排菌者の方たちも、結局はどこからか菌をもらった被害者であり、決して否定的な感情を抱いてはならないと考えます。速やかに感染ルートを究明し、適切に定期外検診や受診の指導をしていくことが結核撲滅への道であると考えております。

さらに、結核の感染（含む疑い）と発病とは、全く違う事は言うまでもありませんが、結核は、治療への道が充分開かれている疾患です。たとえ結核を発病したとしても、何ら社会的地位も損なわれる事なしに、また、働き続けたままでも、外来で治療導入も可能な例も少なくない事も、申し添えておきたいと思えます。

『結核緊急事態宣言』

平成11年7月26日 厚生省・財団法人結核予防会
社団法人 日本医師会

発病者	全 国	1 日	120人
	静岡県	〃	3人
死亡者	全 国	3時間	1人
	静岡県	1年間	60人



長びくせきは
赤信号

複十字シール運動について

●複十字シール運動の趣旨

結核は、今なおわが国最大の伝染病でもあるにもかかわらず、国民の間には「結核は過去の病気」とする意識が蔓延して、受診・診断の遅れを招き、集団感染事件を多発させています。また、肺がんの死亡率も増加しています。

一方、世界では、特に途上国においては、エイズの蔓延も加わって結核の増加は急速であり、WHOが結核非常事態宣言を出して警告を呼びかけているほどです。

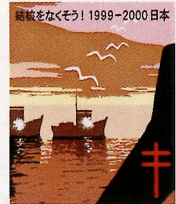
こうした状況のなかで、複十字シール募金運動は、結核や肺がんその他の胸部に関する疾患をなくして健康で明るい社会を作るため、これらの病気に対する知識の啓発と予防意識の高揚を図るとともに、事業資金を造成することを目的とします。

また、世界の結核を撲滅するため、結核が蔓延している途上国への援助も募金の目的とするものです。



複十字マーク
国際結核会議（1902年）
で決められた世界共通の
結核予防運動の旗印

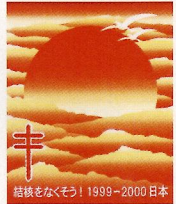
平成11年度複十字シール



「船出」
石川 洋さん



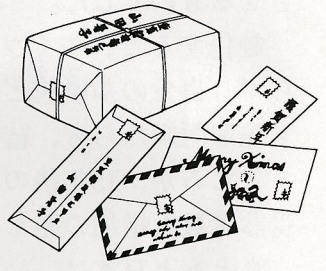
「寒い朝」
松岡 英男さん



「予感」
桐原しょうじさん

シールの使い方

シールは手紙や包装の封印、ハガキ（年賀状・暑中見舞等）にはってご使用下さい。



複十字募金運動にご協力を

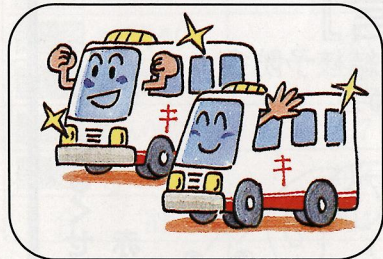
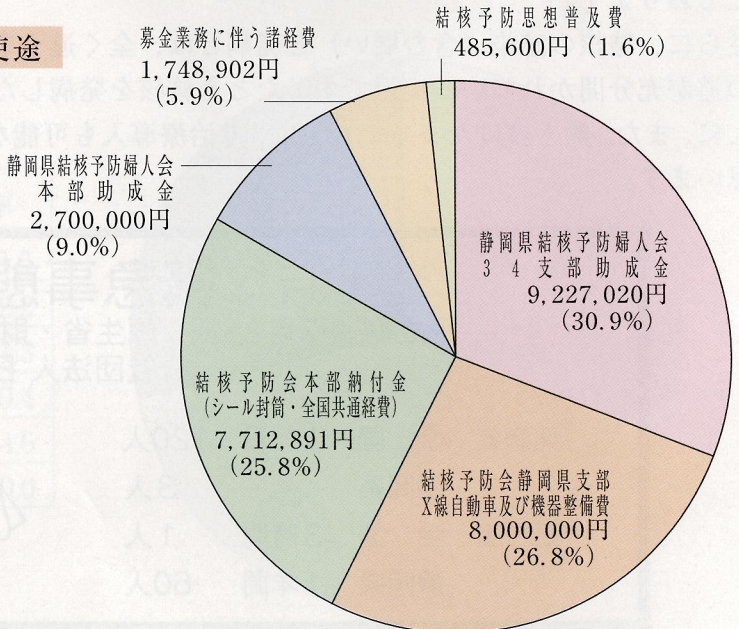
結核予防会では、毎年結核の撲滅を目指して複十字シール運動を実施しております。今年も、各市町村にあります結核予防婦人会を中心とした一般募金活動と事業所や各種団体等の方々にご協力をお願いしております郵送募金の2種類の運動を実施しております。「結核をなくして健康で明るい社会を築くため」に、なにかとご出費の多いおりではございますが、世界120か国で行われております、このボランティア精神に基づく運動の趣旨をご理解いただきまして、一人でも多くの暖かいご協力をいただけますよう心からお願い申し上げます。

なお、平成10年度の募金活動の実績と募金の使途は次のとおりで、皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

・平成10年度募金実績

一般募金	2,684万円
郵送募金	303万円
計	2,987万円

・募金の使途



●胸部検診車・検査専用車・X線機器等の整備に

検診業務のご案内

① 集団検診 (住民検診等)

静岡県は、東西200kmの横長の地域であります。

このような広域を財団法人結核予防会静岡県支部(愛称:結核予防センター)、沼津、掛川、浜松の各分室において胸部検診車(11台)胃部検診車(2台)で健康を守るため県内をくまなく巡回しています。

- 結核検診
- 肺ガン検診
- 胃ガン検診



住民検診の風景

ご注意下さい

X線写真に写って困るものベスト3

- 1位 ブラジャー、ネックレス
- 2位 ボタン
- 3位 厚手のプリント柄

上記の物が写ると、正確な診断ができない恐れがあります。

レントゲン撮影時のワースト3

② 職域検診

検診車による職場への出張検診および当センター内において定期的に健康診断を実施しています。(労働安全衛生法に基づく定期健康診断)

- 一般健診：雇入時健康診断 特殊健康診断
- 定期健康診断 成人病健康診断



所内検診の風景



出張検診の風景

③ その他

静岡県立総合病院「CT肺ドック」及び静岡市保健所クリニック「胸部レントゲン精密検査」の業務委託を受けています。

県立総合病院では高度医療機器の有効利用を目的にCT機器を使用しての「肺ドック」をスタートさせました。この健診は広く県民を対象にして毎月第2第4土曜日に行なうもので、本会と委託契約を結び、放射線技師が業務に従事しています。

静岡市保健所では住民検診で精密検査が必要な市民を対象にして週1回程度のクリニックを行なっていますが、委託を受けて放射線技師が業務に従事しています。

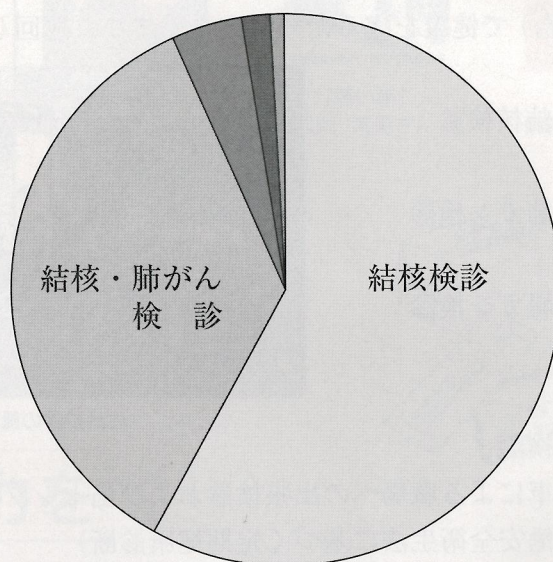


肺ドック健診の風景

平成10年度 検診検査の実績

平成10年度、当結核予防会静岡県支部が、県、市町村、学校、事業所等からの依頼で実施した結核検診等の実施状況は次のとおりです。

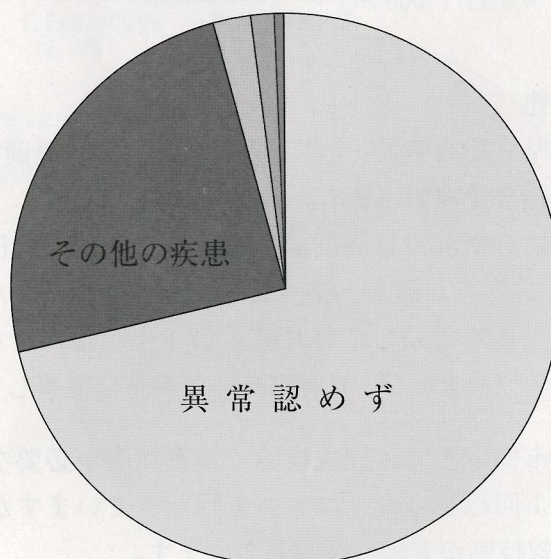
検診項目	件数	比率
結核検診	162,555	58.3
結核・肺がん検診	97,775	35.1
肺がん喀痰検査	1,548	0.6
一般検診	11,859	4.3
胃がん検診	4,943	1.8
合計	278,680	



平成10年度 結核・肺がん検診結果

結核・肺がん検診者97,775人中、要精密受診者1,804人（検診者に対する精密受診率1.85%）の受診結果は、次のとおりです。

検診項目	件数	比率
異常認めず	1,290	71.5
原発性肺がん	40	2.2
移転性肺がん	24	1.3
肺がんの疑い	7	0.4
その他の疾患	443	24.6
合計	1,804	100.0



平成11年度事業

1 普及啓発事業

- (1) 結核予防週間の行事（9月24日～9月30日）
県に協力してポスター・パンフレット等を関係機関に配付をします。
- (2) 機関紙「結核しずおか」の発行
当支部の活動状況や結核、肺がん、成人病等の予防方法などを「結核しずおか」で定期的に発行します。
- (3) 静岡県結核予防大会の開催（11月19日午後1時から、静岡県総合福祉会館において）
- (4) 県・市町村が行う健康祭等に出展
県・市町村が行う健康祭等のイベントに結核、肺がんのパネル等を出展して、参加者に対して結核、肺がん等の予防・普及・啓蒙に努めます。
- (5) 表彰
静岡県結核予防大会において、結核予防活動に協力した個人、団体に感謝状の贈呈を行います。
- (6) 複十字シール募金運動
- (7) 出版物の斡旋
結核予防会発行の結核、肺がん等の専門書やビデオなどの斡旋をしています。

2 検診事業

平成11年度、県、市町村、学校、事業所等からの依頼を受け、次の検診事業を実施中です。

1	結核検診（間接撮影）	265,000件	4	肺がん検診（読影）	100,000件
2	結核検診（直接撮影）	6,500件	5	胃がん検診	9,000件
3	喀痰検査（肺がん）	1,600件	6	総合検診等	17,000件

【台風】

秋は、台風シーズンです。毎年1度位住民検診時に遭遇します。この時期の検診になるといつも思い出すことがあります。某年某月某日の事ですが、朝から風雨が強く「今日は中止かな」と思いつつ現場に行きました。

今日の検診は、中止と広報スピーカーで流したし、風雨が強いのでほとんど来ないと思っていたら、スピーカーの音が風雨で聞こえない事もあると既に20人ほどきていました。時間が経つにつれて風雨がさらに強くなり、一人も来なくなりました。

役所と相談して中止の張り紙をして帰ると、何と、急に天気がよくなり続々と住民の方が検診に来られたそうです。ところが、やっていなかったのが「けしからん」と役所に抗議されまして、保健婦さんや検診関係者が各家庭に謝りました。

反省………台風の時は予定の時間まで待機するか、中止の情報を徹底出来た時に帰る事だと思いました。

（検診課 石上）

お知らせ

1 静岡県結核予防大会

- (1) 主旨 「結核緊急事態宣言」に基づき結核の問題を再認識し、対策の推進を図るとともに本県に於ける結核予防運動の推進を図る為、県民に結核の問題を再認識して戴くことと、協力を御願する機会とする。
- (2) 主催 財団法人結核予防会静岡県支部・静岡県結核予防婦人会
- (3) 後援 静岡県
- (4) 日時 平成11年11月19日(金)午後1時～3時40分
- (5) 会場 静岡県総合福社会館(静岡市駿府町)7階大ホール

2 寝たきり老人、身体障害者等の結核、肺がん検診の開始

寝たきり老人、身体障害者等通常検診が困難な方を携帯用エックス線装置による検診を12月開始に向けて準備中

3 結核、肺がん関係パネル等の貸出…無料

パネル、フィルム、シャーカステン、ビデオ

4 結核関係図書、パンフレット等の斡旋…財団法人結核予防会発行

図 書 「JATA」ブックスシリーズ「結核症の治療」他13冊、「ヴァジュアルノート結核シリーズ」全4冊、「メデカルカンファレンス」全2冊、その他単行本全16冊

パンフレット 「時には胸にも心配りを」「ひとめでわかる結核と肺がん」「新版結核読本—結核とはどんな病気か—」等…

5 ホームページの開設について

- (1) 財団法人結核予防会(本部)
ホームページアドレス <http://www.jata.or.jp/>
- (2) 静岡県支部はホームページを開設準備中です。



複十字の由来

複十字(The Red Double-Barred Cross)の歴史は古く、九世紀頃近東でキリスト教派の標として使われていた

十世紀になり十字軍が楯の紋章として戦った事から、その栄光ある戦果に因んで、平和と希望の象徴として用いられるようになった。

これが万国共通の結核予防の標となったのは、1902年ベルリンで開かれた第一回国際結核予防会議でフランスが、人類共同の敵である結核との戦いの旗印とすることを提唱し、可決されたことによる。

【題字：田中 隆：元支部職員】

編集後記

毎月のように、検診機関、健康増進センター等関係機関から機関誌、ニュースを送られて来ます。その都度、ここは、歴史もあり実績のある県の外郭団体なのに1回も情報誌を発行した事がない、何故だろう、情けないとの日頃の思いを職員に、情報誌を発行したい事を提案したところ、〈前から思っていた〉〈是非やろう〉と言うことで、今回の運びとなりました。

これで、公益法人として形がとれたと思います。何より良かったと思う事は、自らの仕事の実績や内容と以外に知られていない法人の名称を自らの力で宣伝出来る事であります。さらに、当然の事ながら結核予防等の普及啓発誌でありますから、定期的に発行いたしますので、皆様方の投稿等をお待ちしております。

また、「結核緊急事態宣言」が出されたグットタイミングの時に発行出来大変嬉しく思っております。

(T・H)